



「学校評価について」

校長 妹尾 雅巳

学校評価について、保護者の皆様からご協力いただきまして感謝申し上げます。

学校評価は、文部科学省が平成20年1月に策定した「学校評価ガイドライン〔改訂〕」に基づき実施され、『児童生徒がより良い学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展を目指す』ことをねらいとしています。

その中で本校は、毎年保護者の皆様方から高評価をいただいています。しかしながら、いただいたアンケート結果が高評価であるということに安心をしてはいません。評価が著しく低いものや、評価結果の数値の変動（昨年度や前期との比較等）、評価の数値が低いものの中にも見落とせない課題が含まれています。それらについて要因を探り、改善に努めています。また、いただいたご意見等も真摯に受け止め、改善策を検討しています。

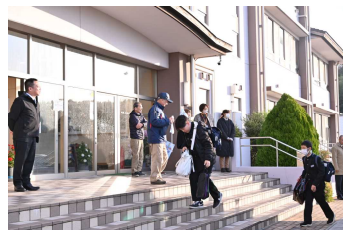
ここ数年来のアンケート結果を見ると、保護者の皆様からの評価が低く、特に関心が高い項目として、「ゲーム」「SNS」「学習（学力を含む）」「あいさつ」などが挙げられます。関心が高いということは、どのご家庭でも頭を悩ませている課題であるように感じます。一朝一夕に解決することは難しいかもしれませんが、学校と家庭がより連携して取り組むべき重要なテーマです。

「ゲーム」「SNS」について、近年「メディアコントロール」という言葉が使われるようになってきました。これは、メディアに接する時間や内容を親がしっかり把握し、制限・制御していくという考え方です。スマートフォンが主流となった現代では、より具体的で実践的な対応策を考える必要があります。ご家庭だけでの対応が難しい部分もあるかと思しますので、学校と連携しながら進めていきたいと考えています。

「学習（学力を含む）」については、授業改善や家庭学習の習慣づけが重要とされています。授業改善は教職員にとって永遠の課題であり、「これで十分」と言えるものではありません。タブレット端末の活用を含め、視覚的にわかりやすい工夫や具体的な表現を取り入れた授業を進めています。また、学校から提示する課題についても無理のない範囲で取り組んでいただければ幸いです。



「あいさつ」については、生徒アンケートでは比較的评价が高い項目ですが、どの程度の「あいさつ（声の大きさや態度など）」を評価基準とするかによって見解が異なる場合があります。また、生徒と保護者の間で認識のズレがある可能性も考えられます。引き続きご家庭での「あいさつ」の習慣化をお願いいたします。



様々な角度からアンケート結果を検証し、改善できる点は積極的に改善してまいります。ご家庭との連携を大切にしながら、子どもたちがより良い学校生活を送れるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。